

総会開催目的の説明

1. 白圭社設立の意義

書道篆刻芸術の海外文化交流及び将来の研究活動のために、求索社主宰丹羽常見と瓊琚印社主宰小坂克子は協議の結果、新しい書道篆刻研究団体白圭社を設立することにいたしました。つきましては本日の総会にて詳しい概要をみなさまにお知らせしたいと思います。

1) 求索社について

求索社(きゅうさくしゃ)とは丹羽常見を主宰とする篆刻研究団体の名称です。社名は中国人芸術家 鄒濤氏より命名していただきました。求索とは屈原の詩、楚辞の離騷^{りそう}の一節にある言葉で、「絶えず探索する」という意味を持っています。

〈求索の出典〉 楚辞・離騷

路曼曼其修遠兮

路は曼曼(まんまん)として其れ修遠(しゅうえん)なり。

吾將上下而求索

吾れ將(まさ)に上下して求索(きゅうさく)せんとする
学問の道は遠くて辛いものだが、より良い教学方法を
絶えず探索していくべきである。

【屈原】くつげん (前343頃～前278頃)

屈原。名は屈平、原は字。楚の王族出身で中国文学史上最初に現れた戦国時代の楚の大詩人である。後世中国に現れたすべての詩人たちは、多かれ少なかれ、屈原を自分たちの先駆者とし、模範として仰いできた。

屈原は楚の政治をとる最高官位にのぼり国運回復に尽力したが、讒言ざんげんにより江南ほうちくに放逐され、汨羅(べきら)の淵とろ (中国の湖南省北部を流れる川) に投身自殺した。その憂憤・憂国の思いを吐露りそうした「離騷」をはじめ「天問」「九歌」などの作品が「楚辞」に収録されている。

2) 瓊琚印社について

瓊琚印社(けいきょいんしゃ)とは2004年に成立した小坂克子を主宰とする書道篆刻研究団体の名称です。社名は師匠中島藍川より命名していただきました。瓊琚とは詩経・衛風のなかに精美的な玉佩という意味で使われています。篆刻を学ぶ者にとって美しい石や玉は、作品を刻す印材や作品そのものを象徴するものでもあります。

瓊琚の出典 詩経・衛風

投我以木瓜	我に投ずるに木瓜(もっか)を以てす
報之以瓊琚	之に報ゆるに瓊琚(けいきょ)を以てす
匪報也	報ゆるに匪(あら)ざる也
永以為好也	永く以て好みを為さんとする也

あなたたちはわたしたちに木瓜を贈ってくれました、わたしたちはそのお返しに瓊琚を贈ります、単にお返しというにはとどまりません、これを機会に長いお付き合いをしたいと思うのです。

【詩 経】

中国最古の詩篇。古くは単に「詩」と呼ばれ、また周代に作られたため「周詩」とも呼ばれる。儒教の基本経典・五経あるいは十三経の一。漢詩の祖型。古くから経典化されたが、内容・形式ともに文学作品(韻文)と見なしうる。もともと

舞踊や楽曲を伴う歌謡であったと言われる。西周時代、当時歌われていた民謡や廟歌を孔子が編集した（孔子刪詩説）とされる。

3) 白圭社について

白圭社は 2012 年に設立する新しい書道篆刻研究団体です。丹羽常見主宰の求索社と小坂克子主宰の瓊琚印社の合同書法篆刻研究団体として書道篆刻芸術の海外文化交流及び将来の研究活動のために、本日 2012 年 2 月 12 日発足いたします。

白圭（はっけい）は白珪とも書き、中国古代の白玉製の祭司または賓客の接待に用いる器を意味します。またその美しさゆえに清白の身のたとえにも使われます。

詩経・大雅 抑篇

白圭之玷、尚可磨也。

白圭の闕(か)けたるは尚磨くべきなり。

斯言之玷、不可爲也。

斬(こ)の言の闕けたるは為(おさ)む可からず。

「美しい玉は欠けても磨けば元通りになるが、人の失言は一度口から出たら取り返しがつかない」

圭は、白く清らかな玉のことです。白圭は瑕がついても磨けばよいが、言葉は言い損なうと取り返しがきかないの意で、転じて「完全無欠の清らかな玉も、さらに磨くべきである」の意味となりま

す。身を慎み、さらに自分自身を磨こうと努力をすることが大切という教えです。